

[学校再編の検討状況に関する市民説明会]

1. 新しい学びの形、 義務教育学校（小中一貫校） について

令和8年7月27日（月）

～

令和8年8月4日（火）

各務原市教育委員会



▲ 検討の詳細は、市ウェブサイトにて
公開しています。

この資料でのご説明内容

1. 義務教育学校とは？

どんな制度なのか、これまでの学校との違いは

2. 主な利点

子どもたちにとって、どんな良いことがあるのか

3. 心配される課題と、その対応策

保護者の皆様からの不安の声にどう対応するか

1. 義務教育学校とは？

小学校から中学校までの9年間を一貫して学ぶ、1つの学校です

これまで



- ・小学校と中学校は別々
- ・校長先生はそれぞれの学校におり、
学校方針やルールも別々
- ・小中が連携し、情報共有

これから



- ・学校は1つ
- ・校長先生は1人で、9年間の一貫した
教育方針
- ・小中の先生が同じ職員室に集まり、
一体的な指導

▶ 子どもの成長に合わせ、柔軟なクラスづくりや授業ができます

2. 利点① 9年間で子どもを育む教育

- 一人の校長のもと、一つの教職員組織となることで、小学校期から中学校期への一体的・継続的な指導が可能です
- 生活面も勉強面も、つまずきを早い段階で見つけてサポートします
- 小学校期の先生がすぐ近くに居てくれる、時には授業も行います
- 小学校から中学校への接続が円滑化され、いわゆる中1ギャップ(※)の不安も軽減されます

※中学校に進学したら、急に勉強が難しくなった・・・

環境が変わって、不安になり、学校に行きづらくなった・・・

先進地では・・・



5年生時から50分授業や教科担任制を開始し、小学生高学年から、中学校の先生の授業を受けることで、中学校期への準備をしています

5年生から学級担任が持つ授業は週に1～2時間程度で、その他教科は教科担任制に切り替わり、いろいろな先生がクラスに関わっています

2. 利点② 専門性を生かした「教科担任制」

- 教員の持つ免許や専門性に応じた「教科担任制」を導入し、中学校の先生が小学生の授業を行う「乗り入れ授業」が可能となります
- より分かりやすく質の高い授業を行うことができ、子どもの学習内容の理解が高まり、学力向上が期待できます
- 様々な先生と触れ合うことができ、学習意欲の向上も期待できます

先進地では・・・



小学3年生から専門教科（音楽や図工、家庭科など）を中心に教科担任制を実施しています

教員数を生かして、少人数（習熟度別）学習を実施しています

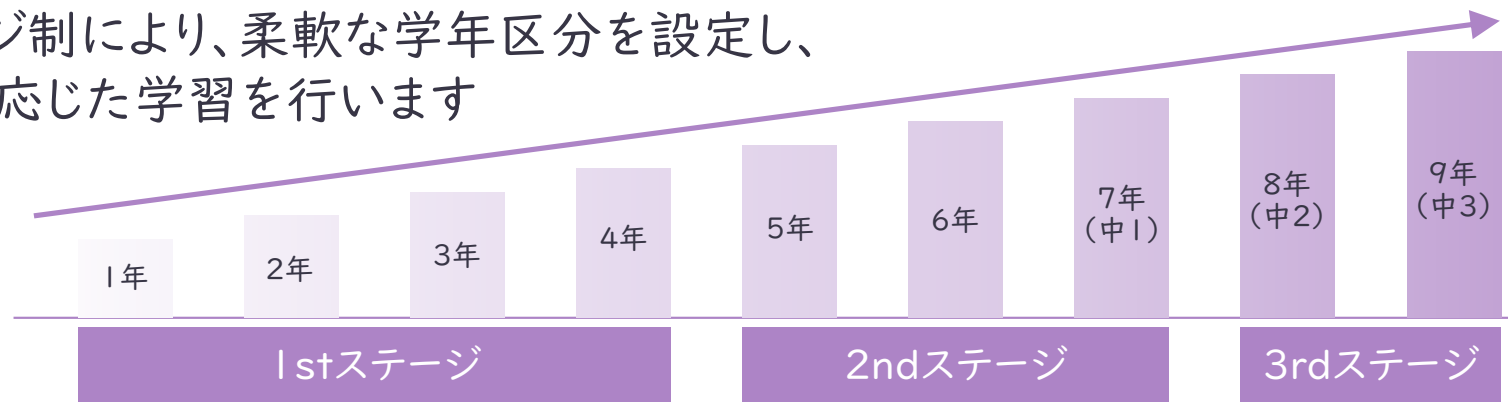
小学6年生の算数の授業は、中学校の数学の先生が担当しています

2. 利点③ 柔軟なカリキュラム設定

- 9年間を見通した学校教育目標や、教育課程を編成できます
- 子どもたちがより理解しやすいよう、学年段階間での指導内容の「入れ替え」や、「前倒し」も可能となります
- 地域を学ぶ「新教科」の創設も市の判断で実施できます

例えば

ステージ制により、柔軟な学年区分を設定し、段階に応じた学習を行います



先進地では・・・



小中学校の先生で、9年間を意識した教育課程の見直しを行っています

地域で活躍する方を講師に迎え、ふるさと学習を行っています

2. 利点④ 異学年交流の活性化

- 小学生は、身近にかっこいい中学生のお兄さんやお姉さんがいることで、「あんな風になりたい」というあこがれや目標が育ちます
- 中学生は、小さな小学生のお世話や、お手本となる姿・行動を経験することで、思いやりの心や責任感が育ちます

先進地では・・・



中学生が先生となり、小学2年生の九九のテストを行っています

年間行事のいくつかを複数の学年で行っています

3. 懸念される課題① 小学校卒業という節目が無いと・・・



小学校卒業という節目が無いと、達成感が無く、物足りないのでは？



こうして対応します！

小学校課程のまとめとして、「修了式」を行います

それ以外にも、ステージ制を導入し、各ステージの開始時期での節目の
行事などを行います

先進地では・・・

6年生時の「修了式」は、一つの節目として、今までどおりご家族も参加する式典として行っています

3. 懸念される課題② 新しい出会いは減るのでは？



中学校進学時は、複数の小学校が集まることで、新しい友達ができただが、9年間同じだと、友達も変わらないのでは？



こうして対応します！

各務原市の学校再編方針では、「一定規模の確保」を掲げています
新しい学校では各学年2クラス～4クラスを確保することとしているため、
毎年度のクラス替えにより、新たな出会いが生まれます
また、異学年交流により、学年を越えた出会いが生まれます

3. 懸念される課題③ リーダーの経験が減るのでは？



小学6年生の時に、最上級生として活躍する場がなくなるのでは？



こうして対応します！

異学年交流や様々な行事で、リーダーを決めていきます

ステージ制導入時に、各ステージの最高学年がリーダーを務めます

先進地では・・・

1年生のお世話や掃除の指導は4年生が中心に、5～7年生が生徒会を、8・9年生は受験勉強へ向けて取り組むなど、役割分担があります

縦割り活動は6年生が中心、学校全体の生徒会は7・8年生が運営しています

3. 懸念される課題④

人間関係やいじめが固定化されない？



9年間同じメンバーだと、トラブルがあった時に逃げ場がない？



こうして対応します！

小・中の先生がチームになり、「たくさんの先生の手」で子どもたちの小さな変化にいち早く気づき、対応します

同級生だけでなく、上級生や下級生との「縦割り活動（異年齢交流）」を増やすことで、「いろいろな居場所」を作ります

先進地では・・・

義務教育学校化により学校規模が大きくなったことから、教職員も多くなり、学級担任のほかに学年担当1名のチーム体制で学年全体の担任として子どもたちを見守っています

3. 懸念される課題⑤

小さな子と大きな子が一緒に大丈夫？



体格が全然違う小1と中3が、同じ場所で生活して危なくない？
小1と中3では、活動内容に大きな差があるのでは？



こうして対応します！

普段過ごす教室や遊び場を、年齢に合わせて適切に分ける工夫をします
中学生が「守ってあげる存在」になるよう育ちます

運動会や体育祭等の行事は、目的に応じてステージごとに実施する事例
もあります

先進地では・・・

中休みやお昼休みの時間帯を小学校期と中学校期でずらしています

昇降口や移動用階段を分けるといった運用の工夫がされています

3. 懸念される課題⑥ 受験を控えた中3への影響は？



小さな子どもたちが同じ学校にいて、受験勉強に集中できる？



こうして対応します！

棟や階を分けることによる上級生エリアの確保や、静かに集中できる空間づくりなど、学習環境を工夫します

9年間の計画的な教育活動で、小学生や中学生が互いの生活を知り、自分たちの在り方を学びます

先進地では・・・

8・9年生フロアには防音ガラスの引き戸を設置し、テスト時などに仕切りをつけて、集中できる環境を整備しています